

継続事業評価シート(対象:H28年度実施事務事業)

H29年度評価

事務事業名	下水道維持管理事業					事務事業コード	03801
部 名	都市建設部	課 名	下水道課	係 名	下水道管理係	部課コード	050500

1. 事業概要

総合計画コード	5431	5342	5432	
事業年度	年度 ~ H	年度	事業類型	●ソフト事業 ○ハード事業
法令等の義務付け	●法令等(市条例・要綱等を除く)で義務付けられている事業 ○義務と任意の両方を含んでいる事業 ○任意(市条例・要綱等を含む)の自治事務		<根拠法令等(法律、条例、要綱など)> 下水道法第3条(管理)、第7条の2(維持、修繕)、第9条(供用開始の公示等)、第23条(公共下水道台帳)他	
めざす 目的成果	下水道施設の点検や修繕を適切に行うことで、既存の下水道処理業務が継続的に提供され、安全で快適な生活環境が確保され、公共用水域の水質が保全されている。			
事業内容	管渠・マンホール・ポンプ場等(仲町中継ポンプ場・田島一丁目排水機場・浜崎排水機場・溝沼3丁目排水ポンプ場・溝沼2丁目MHポンプ場)下水道施設の点検や修繕。			
事業手法	☐ 市の完全な直営 ☒ 委託等(請負、負担金、交付金等を含む) ☐ 市民等との協働 ☐ 補助金交付 修繕、業務委託は業者に発注 設計、監督は職員が実施			

2. 実施結果

H28年度の事業の実施内容			・仲町中継ポンプ場維持管理業務委託・マンホール蓋修繕・浸入水防止工事 ・下水道台帳補正業務委託・田子山下水路負担金・西部10号幹線維持管理負担金 ・仲町中継ポンプ場汚水ポンプ3号機修繕					
単位:千円			H26年度決算		H27年度決算		H28年度決算見込	
投入コスト	a 事業費[イ]～[ホ]		124,878		107,240		119,745	
	財源内訳	[イ]国庫支出金						
		[ロ]県支出金						
		[ハ]地方債						
		[ニ]その他	70,448		46,993		58,496	
		[ホ]一般財源	54,430		60,247		61,249	
	b 人件費		20,518		20,518		20,518	
総コスト(a 事業費 + b 人件費)		145,396		127,758		140,263		
投入労働量		常勤職員等(人工)	2.80 人		2.80 人		2.80 人	
		一般職非常勤職員等(時間)	時間		時間		時間	
a 事業費 (H28年度決算見込)の執行内訳		需用費 53,510千円、役務費 230千円、委託料 32,239千円、使用料・賃借料 615千円、工事請負費 2,230千円、負担金・補助及び交付金 30,921千円						
指標名			単位	H28目標・計画 (H28実績見込)	H29目標・計画 (H29実績見込)	H30目標・計画 (H30実績見込)	最終目標・計画 目標年度	
活 動	①	ポンプ場保守点検日数	日	104 (104)	104 (—)	104 (—)	H 32	年度
	②	マンホール蓋交換数	箇所	160 (87)	160 (—)	160 (—)	H 32	年度
成 果	①	下水道施設の故障件数(重大事故)	件	0 (0)	0 (—)	0 (—)	H 32	年度
	②			()	(—)	(—)	H	年度

3. 事務事業の分析

必要性 (市が関与する必要性はあるか)	判定	☒ A 必要性が高い ☐ B 必要性がある程度認められる ☐ C 必要性が低い		
	☐ 社会経済環境の変化により、当該事務事業が解決すべき課題が増えている、増えることが予想される ☐ サービスの拡大や充実を求める意見・要望が増えている ☒ 法令等により、市に実施が義務付けられている ☐ 市が実施しないと、市民生活に深刻な影響が生じる ☐ 民間が実施した場合、現在のサービス水準を維持することが、収益性や技術面で難しい ☐ その他 <説明> 下水道法第3条により、公共下水道の設置、改築、修繕、維持その他の管理は、市町村が行うものとされており、快適な生活環境の実現のために今後も引き続き適切な維持管理を行う必要がある。			
達成度 (事業の目標は達成したか)	判定	☐ A 目標よりも大きな成果が得られた ☒ B 概ね目標の成果が得られた ☐ C 目標とする成果が得られなかった		
	☐ 活動指標の目標を達成した ☒ 成果指標の目標を達成した ☐ 指標に表れない事項について目標を達成した ☐ その他 <説明: 指標の達成状況及び改善等に関する達成状況を記入> 仲町中継ポンプ場や排水機場等について、設備修繕や運転管理、保守点検業務を適切に実施したことにより、重大な事故を起こすこともなく、安全で快適な生活環境を保つことができた。			
留意点 (政策の立案・推進に際して)	<説明: 留意した点について記入> 思いやり: 仲町中継ポンプ場や排水機場等の維持管理を適切に行い、快適な生活環境を保つことができた。 参加と協働: 市街化区域において浄化槽や汲りトイレを使用している世帯に公共下水道への切り替えを要請した。 経営的な視点: 有収率の向上のために污水管への地下水の侵入防止工事を実施した。			
見直し余地 (事業の内容、実施手法等は適切か)	判定	☐ I 見直す余地がない ☒ II 見直す余地がある程度認められる ☐ III 見直す余地がある		
	☐ 民間委託や指定管理者制度の活用など事業手法の見直しの余地がある ☐ 業務の進め方や手続き(業務プロセス)を簡略化・簡素化する余地がある ☐ サービスの対象、水準、内容を見直す余地がある ☐ 受益者負担のあり方について見直す余地がある ☐ 実施体制(事業間・組織間の連携や事務分担など)を見直す余地がある ☐ 投入したコストに見合った効果が現れておらず、効果向上やコスト圧縮の余地がある ☒ その他 <説明> 下水道施設の老朽化が進み、大量の更新需要が見込まれていることから、コスト削減や事業費の平準化を図るなど計画的に事業を実施する必要がある。			

4. 今後の展開方針〔課としての判断〕

事業の方向性	☒ A 市で継続実施 ☐ B 休止・廃止 (実施時期 : ☐ H28年度から ☐ H29年度から ☐ H30年度から) ☐ C 民営化 (実施時期 : ☐ H28年度から ☐ H29年度から ☐ H30年度から) ☐ D 国・県に移譲 (実施時期 : ☐ H28年度から ☐ H29年度から ☐ H30年度から) ☐ E 終了 (実施時期 : ☐ H28年度まで ☐ H29年度まで ☐ H30年度まで)			
今後の取組方針	成果の方向性	☐ A 拡大 ☒ B 現状のまま ☐ C 縮小		
	投入資源の方向性	事業費	☐ A 拡大 ☒ B 現状のまま ☐ C 縮小	
		労働費	☐ A 拡大 ☒ B 現状のまま ☐ C 縮小	
	見直しの方向性	☒ A 見直して継続 ☐ B 現状のまま継続		
		☐ 民間委託・PFI・指定管理者等を今後導入・拡大 (実施時期 : H 年度) ☐ 業務プロセス改善 (実施時期 : H 年度) ☐ 対象・水準等の見直し (実施時期 : H 年度) ☐ 受益者負担の見直し (実施時期 : H 年度) ☐ 臨時・再任用職員等の活用を今後導入・拡大 (実施時期 : H 年度) ☐ 市民等との協働を今後導入・拡大 (実施時期 : H 年度) ☒ その他 (実施時期 : H 29 年度)		
方針 (次年度の改善内容等を含めた具体的な事業の展開方針) 今後の下水道事業について、コスト削減や事業費の平準化を図るため、平成29年度から平成30年度にかけて策定する下水道ストックマネジメント基本計画に基づき、下水道施設を計画的かつ効率的に管理する。				